

2021 年度  
自己点検・評価報告書

松本歯科大学衛生学院

## I 学校の現況

### (1) 学校名

松本歯科大学衛生学院

### (2) 所在地

長野県塩尻市広丘郷原 1780

### (3) 沿革

- 1976年2月 歯科衛生士養成所に指定（厚生省）
- 1976年4月 歯科衛生士養成所開所
- 1977年3月 私立専修学校松本歯科大学衛生学院設置認可（文部省）
- 1977年4月 私立専修学校松本歯科大学衛生学院開校  
歯科技工士科増設、歯科技工士養成所に指定（厚生省）
- 1981年4月 歯科技工専修科増設
- 2006年3月 歯科技工士科閉科
- 2010年4月 歯科衛生士科が3年制課程に移行、学科名を歯科衛生士学科とする
- 2017年2月 職業実践専門課程の認定を受ける

### (4) 学科の構成

歯科衛生士学科

### (5) 学生数及び職員数

#### ①学生数

(2021年5月1日現在)

学科	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	合計
歯科衛生士学科	38	114	30	32	26	88

#### ②職員数

(2020年5月1日現在)

学科	専任教員	非常勤教員	事務職員
歯科衛生士学科	4	74	1

### (6) 施設の概要

普通教室 4室  
実習室 3室  
職員室 1室

## II 設置目的

松本歯科大学衛生学院は、歯科衛生士に必要な知識と技術を教授するとともに、豊かな人格を養い、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。

(松本歯科大学衛生学院学則第1条)

## III 教育目標

温かく豊かな人間性と幅広い教養を備え、口腔保健の専門的知識と技術を持って広く人々の健康と幸福に貢献するとともに、地域や国際社会の保健・医療・福祉・健康の課題に柔軟に対応できる感性豊かで創造力をもった総合的な口腔保健の専門医療人を養成することを目指すものである。

#### IV アドミッションポリシー・ディプロマポリシー

##### ○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

1. 歯科衛生士として人々の健康と幸福に寄与したいという目的意識をもっていること
2. 医療人にふさわしい温かい人間性を備えていること
3. 豊かな感性と学問への情熱を有していること
4. 専門家としての知識と技術を学ぶために必要な基礎力を身につけていること

##### ○ディプロマポリシー（卒業認定に関する方針）

1. 歯科衛生士として豊かな人間性と専門性を身につけ、社会に貢献できる
2. 歯科衛生士に必要な専門知識と技術を備え、口腔の健康を支援することができる
3. 歯科衛生士としてのコミュニケーション能力を有し、多職種との協働ができる
4. 歯科医療の進歩、社会構造の変化などに柔軟に対応し、自ら問題解決できる探求心を備えている

## V 自己評価

### 1. 学校の教育目標

松本歯科大学衛生学院（以下「本学院」という。）は、歯科衛生士に必要な知識と技術を教授するとともに、豊かな人格を養い、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。

本学院は、温かく豊かな人間性と幅広い教養を備え、口腔保健の専門的知識と技術を持って広く人々の健康と幸福に貢献するとともに、地域や国際社会の保健・医療・福祉・健康の課題に柔軟に対応できる感性豊かで創造力をもった総合的な口腔保健の専門医療人を養成することを目指すものである。

### 2. 2021年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### 1) 入学定員の充足

- ・ 中信、南信地域の受験実績や入学実績のある学校に対して高校訪問の実施
- ・ 中信、南信地域の高校等で開催される進学相談会への参加
- ・ 一日体験入学の開催及び学校見学希望者への個別対応

#### 2) 新卒者の歯科衛生士国家試験の全員合格

- ・ 模擬試験の活用により、個々の課題を明確にしながレベルアップを図る。
- ・ 国家試験対策の勉強会の実施
- ・ 成績不振者に対する個別指導の実施
- ・ 学生の自主学習に対する支援
- ・ 教員の教育力向上を目的とした研修会等への参加（全国歯科衛生士教育協議会主催歯科衛生士専任教員講習会等）

#### 3) 社会のニーズを踏まえた実践的な歯科衛生士の育成

- ・ 臨地（病院）実習の開始前に医療スタッフに必要な協調性や規律性を養うため、実習生に診療スタッフの一員であることを自覚させる等の登院前教育を実施
- ・ 実習生が診療に積極的に参加できるようにするため臨床実習指導者（病院歯科衛生士）との連携強化を図る。
- ・ 感染症対策を徹底し、医療人としての自覚を新たにするとともに安全な実習ができるよう環境を整える。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

※評価欄の点数は、4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切で評価したものを集計し、評価者の平均点を評価点とした。

#### 1) 教育理念・目標

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
学校の理念・目的・育人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の目的を学則第1条に規定している。</li> </ul> <p>【学則（目的）】</p> <p>第1条 松本歯科大学衛生学院は、歯科衛生士に必要な知識と技術を教授するとともに、豊かな人格を養い、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の目的に基づき、次のように教育目標を定めている。</li> </ul> <p>【教育目標】</p> <p>温かく豊かな人間性と幅広い教養を備え、口腔保健の専門的知識と技術を持って広く人々の健康と幸福に貢献するとともに、地域や国際社会の保健・医療・福祉・健康の課題に柔軟に対応できる感性豊かで想像力を持った総合的な口腔保健の専門医療人を養成することを目指すものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育人材像は、ディプロマポリシーに定められている。</li> </ul> <p>【ディプロマポリシー】</p> <p>I. 歯科衛生士として豊かな人間性と専門性を身につけ、社会に貢献できる</p> <p>II. 歯科衛生士に必要な専門知識と技術を備え、口腔の健康を支援することができる</p>	4

	<p>Ⅲ. 歯科衛生士としてのコミュニケーション能力を有し、多職種との協働ができる</p> <p>Ⅳ. 歯科医療の進歩、社会構造の変化などに柔軟に対応し、自ら問題解決できる探求心を備えている</p>	
学校における職業教育の特色は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本歯科大学衛生学院は、松本歯科大学に併設された専修学校で、高水準の教育と充実した施設・設備が学校の大きな特徴である。</li> <li>・歯科衛生士の実務経験のある専任教員のほか、多くの大学教員及び医療スタッフが教育に携わり、高度な専門教育を行っている。</li> <li>・また、大学の本館 3 階にある専用施設の他、臨床実習に欠くことのできない大学病院のほか、図書館や体育施設、学生食堂等の施設を大学と共用している。</li> </ul>	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の歯科衛生士の求人倍率は約 20 倍で、全国的に歯科衛生士が不足している状況にある。</li> <li>・近年では、さまざまな調査研究から「歯・口腔の健康と全身の健康の関係」が明らかになり歯科衛生士の需要が高くなっている。</li> <li>・高齢社会の到来とともに、要介護者に対する誤嚥性肺炎の予防などの生命維持に直結した口腔ケアにとどまらず、QOLの維持、健康長寿の達成にはオーラルフレイル（口腔機能の衰え）を察知し機能回復を図ることの重要性が認知され、その中心的な役割を果たすべく歯科衛生士の業務のさらなる展開が期待されている。</li> <li>・これらのことから歯科衛生士のニーズは高い状況にある。</li> <li>・このような社会に求められる歯科衛生士を養成するため、ディプロマポリシーを設定している。</li> </ul>	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の目的（学則）、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーは、シラバスに掲載し学生に周知している他、ホームページに掲載し広く公開している。</li> </ul>	4
学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習先の大学病院の歯科衛生士を委員に含む教育課程編成委員会を編成し、業界のニーズや授業内容・方法の改善等、教育課程の編成に関して意見交換を行っている。</li> </ul>	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・学校の理念・目的・育成人材像は適切に定められ、学校のホームページやシラバスに掲載し、広く周知するように努めている。

2) 学校運営

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則第 1 条に規定された目的に基づき、教育目標を定めている。</li> <li>・教育目標を達成するために、毎年度、事業計画を策定している。</li> </ul>	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画は毎年度作成し、当該年度の目標及び主な取り組みを記載している。</li> <li>・事業計画は、ホームページ及びイントラに掲載し、広く周知している。</li> </ul>	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織は、学院長と専任教員及び事務職員で構成される職員会と学院長、専任教員及び非常勤講師で構成される教員会がある。</li> <li>・職員会及び教員会の構成員、審議事項等は規程に明確に規定されている。</li> </ul>	4
人事、給与に関する規程等は整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事、給与に関しては、就業規則と給与規程に規定されている。</li> </ul>	4

教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務に関しては、学則に基づき、職員会と教員会が組織され、履修規程や試験運用規程を整備し、適切に運用している。</li> <li>・財務に関しては、経理規程等が整備されている。</li> </ul>	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本歯科大学衛生学院は、関係法令を遵守するとともに、各種規程を整備し、各委員会等が適切に役割を分担し、管理・運営を行っている。</li> <li>・個人情報については、「個人情報の保護に関する規程」を整備し、適切に管理・取扱いをしている。</li> </ul>	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則やディプロマポリシー、学校の年間予定、各授業の内容・計画等の教育活動については、シラバスに掲載し学生に配布するとともに学校ホームページで公開している。</li> <li>・この他、自己評価や学校関係者評価の結果、学期制度や成績評価方法等の学校基本情報についても、学校ホームページに掲載し公開している。</li> </ul>	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の管理のためのデータベースや証明書の発行、試験の作成・採点について、システム化されている。</li> </ul>	4

① 課題

- ・生命医療への貢献が囑望されながら志願者が少なく、長野県民の健康増進のための歯科口腔保健の展開に不可欠な人材をより多く充足することは養成校の責務でもある。  
学費を大幅に減額し、現状での上限に募集定員を増員し入学者を確保したが、私学経営上の課題は解決されねばならない。

② 今後の改善方策

- ・絶対数が増えることで歯科衛生士という職業認知が遍く行われ、志願者増につながることを期待する。  
歯科大学をバックボーンとしており、施設環境は充実しているが専門教職員を増員しさらなる定員増につなげたい。

③ 特記事項

- ・事業計画は毎年度、学校のホームページやイントラに掲載し、内外に広く周知している。

3) 教育活動

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の目的（学則）、教育目標、ディプロマポリシーを踏まえ、教育課程編成委員会で外部委員の意見も聞きながら、職員会において教育課程を編成している。</li> </ul>	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに各授業科目の授業毎の学習到達目標や授業の実施回数、開講日等を記載し、明確にしている。</li> <li>・シラバスは、学生に配布するとともに、学校ホームページにも掲載し、公開している。</li> </ul>	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムは、歯科衛生士学校養成所指定規則に定められている基礎分野、専門基礎分野、専門分野、選択必修分野の4つに分類し、体系的に編成している。</li> <li>・1年次は基礎分野と専門基礎分野の授業科目を、2年次前期は専門分野の臨床科目を、2年次後期から3年次前期にかけては臨床実習を、3年次後期には歯科衛生士に必要な知識を総合的に修得する科目を配置している。</li> </ul>	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次には、医療従事者に必要なコミュニケーション能力を養うため、授業科目「医療コミュニケーション」を設定している。</li> <li>・また、2年次には、自分らしいキャリアのあり方について洞察を深め、社会人として求められる姿勢や資質・能力を身につけるため、授業科目「キャリアデザイン」を設定している。</li> </ul>	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医療界に勤務している方を委員に加えた教育課程編成委員会を設置し、授業内容やカリキュラムの編成等について意見や助言を得</li> </ul>	4

により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	ている。	
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	・実践的な職業教育となる授業科目「臨地実習」については、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の講義科目を履修した後の2年次後期から3年次前期に設定され、体系的に位置づけられている。	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	・学生に対し、授業評価アンケートを年2回(前・後期)実施している。 ・アンケート結果は職員会で点検のうえ、授業担当者にフィードバックし、授業改善に活用している。	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	・教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を設置し、外部からの評価、意見を得ている。	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	<p>・成績評価、単位認定、進級・卒業については、学則第7条、第8条及び30条、履修規程に規定している。</p> <p>・いずれの授業科目においても、授業実施時間の3分の1以上欠席した場合には、当該授業科目試験の受験資格を失うことを定めている。</p> <p>・評定、進級については、学則第38条に規定し、教員会で審議することを明確にしている。</p> <p>・進級の認定については、学則第30条に規定し、学院長が認定を行なうことを明確にしている。</p> <p><b>【学則】</b> (授業科目・単位数)</p> <p>第7条 本学院の授業科目及び単位数は、別表1のとおりとする。</p> <p>2 単位の計算方法は、次の基準によるものとする。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。</p> <p>(3) 臨地実習については、45時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>(履修の方法)</p> <p>第8条 授業科目の履修の方法については、別に定める。</p> <p>(評定及び進級)</p> <p>第30条 各授業の試験の評定はA(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)の4種とする。A、B、Cを合格としDを不合格とする。</p> <p>2 進級の認定については、各学年の学習評価等により教員会の議を経て学院長が行う。</p> <p>(卒業及び専門士)</p> <p>第39条 本学院の卒業要件は、本学院に3年以上在学し、所定の授業科目を履修し、別表1に定める単位を修得することとする。</p> <p>2 卒業の認定については、教員会の議を経て学院長が行う。</p> <p>3 前項により卒業した者には、専門士(医療専門課程)の称号を授与する。</p> <p><b>【履修規程】</b> (進級要件)</p> <p>第7条 本学院の学生は、それぞれの年次において、学則第7条別表1の基礎分野、専門基礎分野及び専門分野のうちそれぞれの年次で履修すべきすべての必修の授業科目について、単位を修得しなければ、次年次へ進級することができない。</p> <p>(卒業要件)</p> <p>第8条 卒業するためには、3年以上在学し、次に掲げる単位を修得しなければならない。</p>	4

	(1) 基礎分野 10 単位 (2) 専門基礎分野 24 単位 (3) 専門分野 67 単位 (4) 選択必修分野 7 単位	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習を修了した 3 年次後期に、これまでの講義の復習となる授業科目「歯科衛生士特論」を配置し、各自の課題を明確にしながら歯科衛生士国家試験に備えている。</li> <li>・特に 3 年の成績不良者には、国家試験対策特別補習を実施し、国家資格の取得に向けたフォローを行っている。</li> </ul>	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員には、歯科衛生士としての実務経験のある者を 4 人配置し、さらに歯科医師や歯科衛生士としての実務経験のある松本歯科大学の教員や医療スタッフが非常勤講師となっており、人材育成目標の達成に向け十分な教員体制となっている。</li> </ul>	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医師や歯科衛生士としての実務経験のある松本歯科大学の教員や医療スタッフが非常勤講師となっており、優れた教員が確保できている。</li> </ul>	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に歯科衛生士の養成に係る業務に必要な知識又は技術を修得させ、教員の能力向上と資質の向上を図るため、「松本歯科大学衛生学院教員研修規程」を定めている。</li> <li>・また、教員は経験年数等に応じて研修会に参加し、資質向上に努めている。</li> <li>・専任教員 1 名が日本医療機器学会の「第 2 種滅菌技士」認定資格を取得した。</li> </ul>	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員については、学生支援機構より配信されている動画により、奨学金事務の研修を行った。</li> <li>・全国歯科衛生士教育協議会主催の講習会に参加し、「歯科衛生士（教育）」の認定を取得・更新している。</li> </ul>	4

① 課題

- ・特になし

② 今後の改善方策

- ・特になし

③ 特記事項

- ・教員の能力向上と資質の向上を図るため、「松本歯科大学衛生学院教員研修規程」を定め、経験年数に対応した研修会へ参加させている。

4) 学修成果

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
就職率の向上が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度の求人倍率は 29.9 倍で、卒業生 25 人、全員が就職している。（歯科医院：20 人、病院：5 人）</li> <li>・全国的に歯科衛生士が不足している傾向があり、就職率は 100%となっている。</li> </ul>	4
資格取得率の向上が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科衛生士の資格取得のため、体系的にカリキュラムを編成し、成績不良者には、国家試験特別補習を実施している。</li> </ul>	4
退学率の低減が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不良や長期欠席が退学につながるが多いため、次のような対応をしている。</li> <li>・クラス担任による個別相談、個別指導により、日ごろより学生の状況を把握できるようにしている。</li> <li>・授業を無断で欠席することのないように、学生本人が事前に学校へ連絡することを徹底指導している。また、欠席理由等を把握し、遅刻の常習化や長期欠席とならないように個別に対応している。</li> <li>・2021 年度の退学者数は次のとおり。</li> </ul>	4



	1年1人、2年0人、3年0人、合計1人	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	・在校生については把握できているが、卒業生については把握できていない。	3.4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	・卒業後のいかなるキャリア形成にも対応できるように、在籍時に幅広く高度な専門教育を行っている。 ・歯科衛生士・介護支援専門員として活躍する卒業生を招き、在校生に対する講義を実施している。	3.6

① 課題

・卒業生の社会的な活躍、キャリア形成の効果等について、学校が把握することは困難な状況にある。

② 今後の改善方策

・卒業生の状況把握には、校友会と連携を図ることも必要である。

③ 特記事項

・全国的に歯科衛生士が不足している状況にあり、毎年、求人倍率も高く就職率も100%となっている。

5) 学生支援

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	・進路、就職支援に関する支援は、事務が担当している。 ・進路調査、就職活動説明会、求人票の公開等、就職支援を行っている。 ・必要に応じて、窓口で個別相談に応じている。	4
学生相談に関する体制は整備されているか	・日頃から、担任と教務主任が学生と面談し、学習及び生活状況を把握している。 ・必要に応じて父母への状況報告や相談を行い、特に問題がある場合には三者面談を実施し、問題の早期解決に努めている。	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	・経済的な支援として、日本学生支援機構の奨学金、自治体・民間等の奨学金、民間の教育ローンを活用している。 ・学費を大幅に減額し、就学しやすい環境を整えた。	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	・併設される松本歯科大学の保健室を共用で利用できる環境となっている。	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	・新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛になったが、併設される松本歯科大学の課外活動に参加できる環境となっている。	3.2
学生の生活環境への支援は行われているか	・施設、設備面では、松本歯科大学に併設されているため、大学の図書館、体育施設、学生食堂、学生寮等の大学の施設を共用で利用できる環境となっている。	4
保護者と適切に連携しているか	・必要に応じて父母への状況報告や相談を行い、特に問題がある場合には三者面談を実施し、問題の早期解決に努めている。	4
卒業生への支援体制はあるか	・卒業生への支援体制は特に整備していないが、相談、要請があれば、対応できる体制となっている。	3.8
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	・昼間課程のため、働きながら学校に在籍できる環境とはなっていない。 ・2022年度から学費を大幅に減額し、社会人が就学しやすい環境に整備した。	3.2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	・高校等との連携によるキャリア教育の取組は行われなかった。 ・歯科医師会と共に、進路指導教諭、学年主任教諭はじめ進路指導にあたる高校教諭対象とした歯科衛生士養成校の説明会を計画した。（新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。）	2.6

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・学校独自の奨学金制度はないが、学生支援機構奨学金等の案内を適切に行っている。

## 6) 教育環境

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室、実習室等施設は、指定規則第2条に規定される教室、実習室等を確保している。</li> <li>・教室の広さは歯科衛生士養成所指導ガイドラインに定める面積以上を確保している。</li> <li>・教室等には換気設備がなく、冷暖房は全館空調となっているため、中間期の教室内環境が十分とは言えない。</li> <li>・実習室のユニット数台が修理困難な状況にあるため、新年度に対応できるよう必要台数を確保した。</li> <li>・個人面談は空き教室等を使用しているが、常時使用できる適切な広さの施設がない。</li> </ul>	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習担当の指導者とは、定期的に意見交換を行なっている。</li> </ul>	3.6
防災に対する体制は整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人として、自衛消防隊の組織が整備されている。</li> <li>・10月に防火・防災訓練を実施し、授業中に火災が起きたという設定で避難訓練を行った。</li> </ul>	3.8

### ① 課題

- ・適切な面談室がない。
- ・空調設備が整っておらず、夏季・冬季の教室内環境が適正ではなかった。
- ・教室、実習室の換気設備および冷暖房設備が整っていないため、空調管理、温度管理が困難である。
- ・実習設備・機器類について、部品の製造終了等の理由により使用不可のものがある。

### ② 今後の改善方策

- ・講義館の専用教室確保により、これまでと比較し環境が整うと考えられる。
- ・現在の施設を活用し、面談に適した環境を整える。

### ③ 特記事項

- ・図書館や食堂、体育施設等の施設は、松本歯科大学と共用の施設となるため、充実した環境が整備されている。

## 7) 学生の受入れ募集

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、高校訪問は実施しなかった。</li> <li>・長野県内の高校に学校案内や一日体験入学の案内を送付し、高校への情報提供に努めた。</li> </ul>	4
学生募集活動は、適正に行われているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で十分な学生募集活動が行えなかったが、感染防止策を講じたうえで、一日体験入学を2回開催している。</li> <li>・企業の主催する高校を会場にした進路ガイダンスに参加し、学生募集を行っている。</li> </ul>	4
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動では、歯科衛生士の業務内容、歯科衛生士の資格を取得するまでの流れ、カリキュラム、国家試験結果、卒業生の進路、求人状況、入試日程等を事実に基づいた説明を行っている。</li> </ul>	4
学納金は妥当なものとなっているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学納金は、次のとおり、学則に規定されている。            入 学 金：120,000円（入学時のみ）            授 業 料：660,000円（毎年度）            実 習 料：40,000円（毎年度）            諸納付金：15,000円（毎年度）</li> </ul>	4

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の納付金は820,000円で、2・3年次は各年次700,000円で、3年間の合計は2,220,000円となっている。</li> <li>・長野県内の私立歯科衛生士養成所と比べても、妥当な金額であるが、2022年度より、大幅に学納金を減額することが決定された。</li> </ul>	
--	---	--

① 課題

- ・18歳人口の減少に伴い、質の高い学生の確保し、入学定員及び収容定員の充足が課題となっている。
- ・志願者が少なく、入学者選抜の選抜機能が低下している。

② 今後の改善方策

- ・高校での進路説明会への参加や高校訪問により、学校のPR活動を行い、志願者の増加を図る。
- ・より質の高い学生を受け入れるため、入学者選抜の方法や実施時期等の検証を行う。

③ 特記事項

- ・大学に併設され、他学校にない環境にあることから、県内では最多の入学者を確保しているが、18歳人口の減少が進む中で、定員充足に向けた取り組みが課題となっている。

8) 財務

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
財務情報公開の体制整備はできているか	・財務情報は、ホームページで公開している。	4

① 課題

- ・特になし

② 今後の改善方策

- ・特になし

③ 特記事項

- ・財務情報については、学校法人の経理部門で担当し、適切に情報公開を行っている。

9) 法令等の遵守

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	・専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導ガイドライン等の法令を遵守し、適正な管理運営を行っている。	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	・学校での個人情報の取得にあたっては、入学時オリエンテーションで説明し、理解を得ている。	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	・自己点検・評価を毎年度実施し、現況を把握するとともに問題点の改善にあっている。	4
自己評価結果を公開しているか	・自己点検・評価結果については、ホームページに掲載し公開している。	4

① 課題

- ・特になし

② 今後の改善方策

- ・特になし

③ 特記事項

- ・専修学校設置基準等の関連法令を遵守し、適正な運営に努めている。

10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	取組状況（事実の説明）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	・塩尻地区歯科医師会・塩尻市共催の「よい歯を守る相談会」に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。	3.3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	・新型コロナウイルス感染症対策のためボランティア活動は自粛するよう学生に周知した。	3.5
地域に対する公開講座・教育	・出張講義への講師派遣や歯科医師会主催の「歯科衛生士復職支	3.8

<p>訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</p>	<p>援セミナー」の受け入れ体制を整えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出張講義への講師派遣や歯科医師会主催の「歯科衛生士復職支援セミナー」の受け入れ体制を整えている。</li> <li>「歯科衛生士復職支援セミナー」については、2022年2月に本校を会場に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため延期となった。</li> <li>これまでの状況は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>2014年6月12日 松田・南信株式会社（現：株式会社 マナテック） タイトル「お口の健康と歯科衛生士」 担当：島田陽子</li> <li>2016年12月8日 歯科医師会 復職支援セミナーの開催（本校会場）</li> </ul> </li> </ul>	
---------------------------------------	--	--

- ① 課題
  - ・特になし
- ② 今後の改善方策
  - ・特になし
- ③ 特記事項
  - ・特になし

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校は、学校の目的・教育目標を具現化するため、毎年度、事業計画に具体的な取り組みを掲げ、実現に向け取り組んでいる。

歯科衛生士国家試験については、卒業生（新卒）25人が受験し、全員が合格した。また、昨年の国家試験で不合格となった既卒者1人も受験し、合格となった。これにより現役の合格率と全卒業（1,372人）の国家試験合格率は100%となった。

学生募集については、2022年度入学生より入学定員が38人から50人に引き上げられたが、授業料を大幅に減額したこと等により、新入生50を確保し定員を充足することができた。2023年度以降も多くの志願者を確保し、入学者選抜機能を高めていくことが課題である。